

事務局からのお知らせ

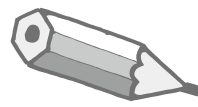
「ものづくりスタジアム in ぐんま 2016」 に出展します

★日時 平成28年11月5日(土) 10:30~16:00
11月6日(日) 10:00~15:00

★会場 群馬産業技術センター
前橋市亀里町884番地1
☎027-290-3030

主催 群馬県職業能力開発協会
群馬地域技能振興コーナー
一般社団法人 群馬県技能士会連合会
群馬県

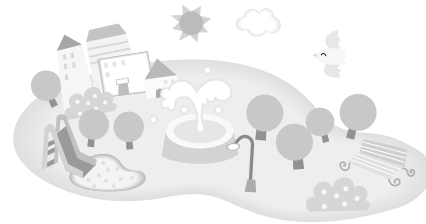
出展内容は竹細工(作業体験あり)です。
当日、ご協力いただける方を募集しております。
事務局までご連絡ください。(☎027-243-5693)



編集後記

無事、造園群馬No.90の発行となりました。平成27年度より年度内に1回の不定期発行とさせていただきます。

今回の発行日7月12日の過去に起こった出来事を調べていたら、23年前(平成5年7月12日)に北海道南西沖地震が発生した日でした。推定震度6の地震により北海道、東北地方、とくに奥尻島に大きな津波の被害があったことを再確認しました。会員の皆様に義援金の協力をしていただいた熊本地震では、最初の地震発生4月14日夜にニュース速報で流れた震度は7とあり、それを見た瞬間、大きな声を上げてしまったのを記憶しています。他にも起こってしまった大きな地震の被害を想うと、普段どおりの生活を過ごせる日常のありがたみを痛感いたします。



道の駅 中山盆地

吾妻郡高山村中山2357-1

建物の外観はヨーロッパの城をイメージしたというが、かなり現代的にアレンジされ、斬新で新鮮な印象だ。

天然温泉の風呂を併設

道の駅「中山盆地」は、主要地方道渋川下新田線沿いにある、平成26年開設の比較的新しい道の駅だ。「中山盆地」という名前も、地域の特徴を活かした個性が表れていていい感じだ。

屋内の農産物直売所には、地元産のさまざまな農産物が並び、加工品コーナーや手作りコーナーでは、特産の生芋こんにやくや手作り加工品などが所狭しと陳列棚を埋め尽くしている。

敷地内には、天然温泉の日帰り温泉施設「高山温泉ふれあいプラザ」も併設され、平日でも賑わっている。

また、隣接して宿泊施設のプライベートコテージが8棟建てられていて、家族やグループなどが利用できる。池や林が設けられ、いい雰囲気を演出している。ここに宿泊している間は「高山温泉ふれあいプラザ」に無料で入館できる。

「おもてなしホール」は誰でも気軽に利用できる休憩スペースで、お茶の無料サービスがある。店内で買った弁当などをここで食べてもOK。



直売所では、地元産のブルーベリーやブルー、りんごジュースやジャム、アカシアとトチの完熟はちみつなども。「そばいなり」やまんじゅう、十割蕎麦、パン、スイーツなども人気とか。



ずしりと重い、けっこうな大きさのキャベツが160円。つい衝動買いしてしまった。ほかにも新鮮な野菜がたくさん並んでいた。



田んぼアート研究会が「上州たかやま田んぼアート」をおこなっていて、駐車場から見下ろすことができる。ただし、この時期ではまだ稲が小さく、絵がわからない。



建物のそばに駐められた軽ワゴンで「焼まんじゅう」を売っていた。



入口のひさしに設置された防犯カメラに、ツバメの巣があった。



コテージは「中山盆地」の駐車場の端から階段を下りていく。きれいに整備されていて、山奥というような感じはまったくない。

子どもや家族と
街遊びや楽しい時間を過ごしたい
アクティブユーザー向けフリーペーパー

月刊ヴィアン
Vien
ヴィアン

歴史や風物詩の探訪
といった巻頭特集、グルメ、美と健康、旅、医療Q&A、お得なクーポンなど、旬な情報を満載しています。

人物や歴史にスポットを当てた「ぐんまの偉人」を紹介しています。

ラジオ番組「週刊!ラジオ*ヴィアン」は、グルメや健康からお出かけ情報まで、週替わりでお伝えしています。

☆県内発行部数22万部
☆毎月、前橋・高崎を中心に、無料でご家庭へお届け
☆定期購読も好評受付中
☆置き本スポットはけやきウォーク前橋、JR高崎駅、ベイシア各店など

ヴィアン・ラジオ版 **ラジオ*ヴィアン**
Radi Vien
「FMぐんま」毎週木曜12:55~13:00 On Air

ヴィアンの誌面がホームページで読めます
<http://www.vien.co.jp>

広告掲載のご用命はお気軽にどうぞ
月刊ヴィアン
前橋市問屋町2-3-5 問屋町ビル4F
TEL 027-289-2500
FAX 027-289-2501
Eメール vienweb@vien.co.jp



第32回通常総会が、5月26日（木）午後2時より、前橋地区高等職業訓練校で開催されました。

福田勝巳副会長によって開会の言葉が述べられ、続いて武藤敏彦会長が挨拶されました。会長は、熊本地震への災害義援金が協会員の協力によって多く集まり、それを上毛新聞社へ寄託できたこと、また、秋にはものづくりスタジアムに参加することが決まったのでご協力をお願いしたいなど、お礼や感謝を込めて挨拶されました。

物故会員は、会長を務められたこともある、前橋支部の故・武藤米雄氏（平成27年8月17日逝去）で、1分間の黙祷を捧げて冥福を祈りました。

新入会員は桐生支部の木村聡氏（株式会社さくら農園）。本人は欠席だったため、木村さんをよく知る須永さんが、入会にいたった経緯や人物などについて紹介しました。

特別会員の表彰では、前橋支部塩原浩氏、桐生支部福田栄一氏、渋川支部近藤辰男氏の3名、名誉会員では桐生支部加藤準一氏、同佐藤啓介氏、同石井清氏、沼田支部高橋宏實氏の4名が対象となりました。

総会成立確認報告では、下山監事から「出席者41名、委任状20名。過半数の40名を超えているので総会が成立した」との報告がなされました。

この後、議長団が選出され、登壇した根岸議長が議事録署名人と書記を任命。第1号議案から第5号議案まで、活発かつスムーズに審議が行われ、すべての議案が承認されました。

原田副会長が閉会の言葉を述べ、総会は滞りなく終了しました。

閉会后、「活動報告」として、みどり支部の藤生支部長が「花と緑のぐんまづくり 2016 in みどり」に携わった裏話や苦労話を交えて話をされました。



司会の福田副会長によって総会がスタートし、同じく副会長が開会のことばが述べる。



武藤会長の挨拶。

総会次第

1. 開会のことば……福田勝巳
2. 会長あいさつ……武藤敏彦
3. 物故会員黙祷
4. 新入会員紹介
5. 永年勤続表彰(該当なし)
6. 特別会員および名誉会員表彰
7. 総会成立確認報告……樋下田・下山監事
8. 議長団選出……根岸憲一・篠原和浩
9. 議事録署名人の選出および書記の選任
議事録署名人……原田道明・川島修
書記……藤生幸一・村岡章
10. 議事（議案の上程……福田勝巳）
第1号議案 平成27年度事業報告・会務報告
第2号議案 平成27年度収支決算報告
第3号議案 平成28年度事業計画（案）
第4号議案 平成28年度収支予算（案）
第5号議案 慶弔規定（案）
報告事項
11. 議長団解任
12. 閉会のことば……原田道明



物故者に対し、1分間の黙祷が捧げられた。



新入会員の木村さんが出席していないため代わりに、ロフライールや入会の経緯などを紹介する桐生支部の須永さん。



特別会員表彰に臨む。前橋支部の塩原さん(左)と渋川支部近藤さん。



名誉会員表彰を受けた沼田支部の高橋宏實さん。



下山監事によって総会成立確認報告がなされた。



議案の審議で質問する太田支部の深澤さん。



議長団に選出された前橋支部の根岸さん(左)と館林支部の篠原さんが挨拶。



監査報告をする下山さん(左)と前橋支部樋下田さん。



閉会のことばは藤岡支部の原田副会長。



閉会后、みどり支部の藤生さんは「花と緑のぐんまづくり」に携わった際の話をし、会場からは質問も飛び出すなど盛りあがった。

熊本地震災害に義援金を寄託。

群馬県造園団体協議会が行った熊本地震義援金活動で、群馬県造園緑化協会として20万円を集めることができました。大勢の協会員の皆さんにあたたかいご協力をいただきました。ありがとうございます。

5月19日（木）に行われた上毛新聞への寄託では、当協会からは武藤会長が同行し、上毛新聞の北村幸雄副社長へ手渡されました。

義援金内訳

支 部	人 数	集 金 額
前 橋	16名	40,000円
桐 生	17名	42,500円
みどり	9名	22,500円
渋 川	2名	5,000円
館 林	13名	32,500円
太 田	4名	10,000円
沼 田	4名	10,000円
藤 岡	4名	10,000円
合 計	69名	172,500円
協会費より		27,500円
合 計		200,000円



平成28年5月20日(金)掲載上毛新聞記事

ふるさとキラキラフェスティバル

花と緑のぐんまづくり2016 in みどり

●平成28年4月15日(金)～5月15日(日)

●メイン会場／ながめ公園、大間々町市街地 ●サテライト会場／岩宿の里、富弘美術館



みどり市市政施行10周年を記念

「花と緑のぐんまづくり推進事業」は、「全国都市緑化ぐんまフェア」の理念を将来へつなぐことを目的に、花と緑にあふれた活力ある美しい地域にしようとする事業だ。群馬県が主導し、「群馬県花と緑のぐんまづくり推進協議会」が運営する。協賛企業数は60を超える。

これまでに前橋、渋川、館林、高崎、伊勢崎の各市や、中之条町などで開催されてきたが、今回はみどり市が市制施行10周年を迎えたことを記念し、同市での開催となった。メイン会場とサテライト会場のほか、「ふれあい処」として小平の里、浅原体験村、鹿田山、ひな牡丹園が設けられた。

4月15日に行われたメイン会場でのオープニングセレモニーを皮切りに、高所作業車搭乗体験、歌謡ライブ、楽器演奏、サーカスや大道芸、パントマイムショー、コンサート、スタンプラリーほか、各会場でさまざまな独自

みどり支部が作成した、メイン会場最大の花壇「PR花壇」。「ぐんまちゃん花壇」「中之条町花壇」「富岡市花壇」「安中市花壇」に区分けされ、ウサギやカメ、ぐんまちゃんなどの形に作られている植え込みもある。

イベントが数多く開催され、ゴールデンウィークをはさんで華やかに開催された。

ハードスケジュールの準備作業

みどり支部が花壇づくりの作業に着手したのは3月15日。オープンのちょうど1か月前で、このときから花壇の枠を作ったり土を入れたりという作業を行っていた。苗が納入されたのは4月5日と6日。総数11万株という膨大な量のため、2日に分けて納入されたのだった。この大量の苗は、県の園芸協会が生産者に、このイベント用に依頼して栽培してもらったものだ。

会場には多彩な花壇が作られた。それらは園芸協会によって設計されたもので、みどり支部はその図面をもとに作業を進めていった。図面に描かれた模様には、



駐車場の一角に設置された総合案内所では、パンフレットとともに記念の花の種をプレゼントするなど、スタッフが丁寧に対応していた。



独特の風格を漂わせる「ながめ余興場」。昭和12年に建築された木造2階建の劇場だ。直径約6.3メートルほどの廻り舞台や花道があり、2階席も設けられている。



ながめ余興場の建物と駐車場の中間あたりに、臨時的に設けられた案内所。どことなくのどかで、なかなかいい感じだ。



会場には、大小さまざまないくつもの花壇が華やかに彩りを添えている。上段左はPR花壇の一部で、ウサギやイヌ、ペンギン、フクロウなどの立体がかわちづけられている。上段右は「くまどり花壇」で、歌舞伎役者が顔に施す独特の化粧「隈取(くまどり)」をデザインしたもの。写真ではわかりにくいですが、よくできていた。



大間々名物の菊人形が文字通り花を添えていた。テーマは「花さかじいさん」。右から2番目がじいさん。

力作ぞろいのなかから選ばれた、さらなる力作。左から「群馬県知事賞」「群馬県園芸協会会長賞」「みどり市長賞」

そこに必要とされる花の種類と鉢の数が指示されていたが、ときには株数が不足したりすることもあり、そんなときには自分たちで調整するなどして対処した。

花を植えられる状態になってからオープンまで10日ほどしか日程がなかった。一人が1日あたり3,000鉢植えるという無謀(?)な計算もあったが、そんなうまいぐあいに事が運ぶはずもなく、休日も雨天も作業をしなければならないような状況だった。その間は本来の仕事もなるべく受注を後ろへずらすよう、県から頼まれていた。

会期が終了すれば後片付けをしなければならない。ボランティアで作業を手伝ってもらった地元の人を対象に、希望者には苗を持っていってもらおう。そのため、終了してから1週間ほどは処分をしない。そして、最終的に残ったものを処分する。土の量も膨大で、240から250立方メートルもある。

「思っていたより大仕事でしたが、みなさんのおかげで期間内に植え終わって、それが何よりでした」と、藤生支部長。みどり支部のみなさん、ご苦労さまでした。

建設業許可に解体業が追加されました

みくに労務管理事務所

建設業法等の一部を改正する法律が平成28年6月1日に施行されました。今回最大の改正は、建設業業種区分に39番目となる「解体工事業」が追加されたことです。これまで工作物の解体工事は「とび・土工工事業」に含まれていましたが、独立したひとつの専門業種として扱われることになりました。その背景には、高度成長期以降に建設された工作物の老朽化で解体工事量の増加が見込まれること、アスベストや騒音など環境面への配慮、重大事故の発生防止等、高度な専門的技術力が必要になったことがあげられます。

この改正により、施行日（平成28年6月1日）以降、1件の請負代金が500万円以上の解体工事を請け負うには、原則として解体工事業の許可が必要となります。ただし、法改正に伴う経過措置として、施行日時点でとび・土工工事業の許可を受けて解体工事業を営んでいる建設業者は、引き続き3年間（平成31年5月31日まで）は解体工事業の許可を受けずに解体工事を請け負うことが可能です。しかし、遅くとも施行日から3年（平成31年5月31日）を経過するまでに、新たに解体工事業の許可を取得する必要があります。

また、建設業許可要件である、専任技術者にも経過措置が設けられています。施行日時点で、とび・土工工事業の専任技術者の要件を満たしている者は、平成33年3月31日までの間は、解体工事業の専任技術者とみなされます。一部の資格には、登録解体工事講習の受講又は解体工事に関する実務経験がないと経過措置後、引き続き専任技術者になれない資格もありますので、自社の専任技術者の資格をご確認ください。平成33年4月時点で解体工事業の要件を満たした専任技術者を置いているいない場合は、解体工事業許可は取り消しとなりますので、十分ご注意ください。

なお、土木一式工事や建築一式工事の中で行われる解体工事は、従来通り「土木工事業」や「建築工事業」の許可で対応出来ます。

建設業においては、500万円未満の軽微な工事に該当する場合、建設業許可は不要とされています。しかし、解体工事に限っては、500万円未満であっても「解体工事業者登録制度」は、これまで通り適用されます。工事を行う都道府県ごとに登録が必要になりますので、ご注意ください。



エッセー 木々是好日 30

キリは性質がよく 多方面で活躍する

新木としろう（グラフィックデザイナー）

キリの名の由来は、伐ることによってはじめよりも栄えるからとか、若木が早く出て生長するからとかということで、切りの木、キリとなったという説がある。ほんとうかどうかかわからないが、比較的生長が速いということは事実のようだ。

キリは高さ10メートル、周囲は1メートル以上になるが、生長が速いため、娘が生まれたら桐の苗木を植え、嫁入りのときにその木でタンスを作ったと言われる。

キリの実は蒴果で、一つのそれに小さな種子がたくさん入っている。種子には膜質の翼があり、風に乗って遠くへ飛んでいくようになっている。しかも、発芽率が高いことに加えて生長が速いため、野生化してふえやすいという。この特徴も子孫繁栄のおまじないになりそうだから、嫁入りの縁起に結びつけてもいいかもしれない。

花は円錐花序に淡い紫色の筒状で、夏の始めに花をつける。葉は広卵形の大きな葉だ。

人間にとって、キリの性質はまことに都合よくできている。

- ◎非常に軽く、日本産の木材としては最軽量。世界と比べてもトップクラスで、バルサに次いで第2位。
- ◎強度が高く、特に耐磨耗性は特筆もの。
- ◎防湿性がきわめてよく、湿気や水分を遮断する力が強い。タンスなど、衣類や貴重品を保存するための収納家具用材としては最適。
- ◎優れた耐火性をもち、摂氏400度くらいにならないと



花は5月に、枝先に大きな円錐花序を作って多数付く。花冠は紫色で長さ5～6cm、先端は5裂し、外面に毛がある。



樹皮は灰褐色で、多くの皮目がある。樹皮は染料、葉は除虫薬に加工される。



キリの葉は日本の樹木のなかでは最大。キリは各地で栽培されているが、福島県会津や岩手県南部、越後などでは特に多く見られる。

発火しない。しかも、火がついたとしても燃えにくい。ちなみに、スギの発火温度は240度ほど。

- ◎非常に腐りにくい。そのため、古くから水桶などに使用されていた。
- ◎音響性に優れている。多孔質で粘性を持っているため、音を伝える能力が高い。
- ◎材質が美しい。材はきれいな灰白色で木目が明瞭。削ると淡い光沢を放つ。
- ◎加工が容易。材は軽くてしなやかで、切削や糊付きがよく、仕上がりがきれい。

こんなぐあいだから、材は驚くほどいろいろなものに用いられる。前述のタンスのほか、家具や器具、下駄、琴や琵琶などの楽器、天井板などの建材や建具、薪炭、机、金庫の内箱、火鉢、履物、舞楽面や能面、貴金属入れ箱、書類箱、掛け軸箱、木枕、器具柄、反物の巻き芯や箱など。

また、昔から伝統的に神聖な木とされていて、家紋や紋章などの意匠に取り入れられてきた。

キリは日本各地で植栽されていたが、時代の流れによって、北米、南米、中国、東南アジアから輸入されることも多くなった。